

地域包括支援センター  
「ええげえし」

「ええげえし」＝「相返し」秩父地域の方言で「助け合う・支え合う」ことを意味します。

第11号（年4回発行）

H24. 12. 1発行

《編集発行》

皆野町地域包括支援センター

皆野町大字皆野1420-1

電話 62-1233

題字：書道クラブ「若竹」杉田恵美子様

# 必ず相談しましょう！

11月2日（金）の午後、郵便局から電話連絡があり、頼んでいない健康食品が届き、どうしたらよいか困っているお客さまがいるとのこと。すぐ郵便局に出向き、お客さまからお話を伺うと・・・

『10月30日（火）、突然、本人あての電話があり、一方的に健康食品を勧められたので、「家族に相談してから。」と断ると、「飲んでみたらそうしてほしい。」と言われた。本日（11月2日）午前中に健康食品がメール便で届いた。開封しないで送り主に返却したい。』とのこと。郵便局員さんの協力を得ながら、秩父市消費生活センターに相談し、特定商取引法に基づき、クーリング・オフの手続きをしました。最近、このようなケースが増えているので注意してほしいとのこと。秩父市消費生活センターより）このようなことがありましたら、ひとりで抱え込まないで身近な人や秩父市消費生活センター（25-5200）、町産業観光課または地域包括支援センターへご相談ください。

## 『知って行動すること』の大切さ。

### ～認知症サポーター養成講座～

11月8日（木）に皆野中学校2年生103名、19日（月）に埼玉りそな銀行皆野支店職員13名が認知症サポーター養成講座を受けました。計116名の認知症サポーターが新たに誕生しました。認知症の劇や話を見て聞いて、グループで話し合いました。『笑顔で』『やさしい気持ちで』『ゆっくりお話を聞いて』など大変良い意見がたくさん出ました。企業・団体・寄り合いなどに出向きます。問い合わせ申込みは当センターまで。



【写真上】町社会福祉協議会職員  
による迫真の演技。



【写真右上】中学生のグループ活動。



【写真右下】埼玉りそな銀行

皆野支店の皆様による発表。

## シリーズ 地域の絆 ～書道クラブ「若竹」～

会員9名で活動している「若竹」さんは、月2回、公民館で書に親んでいます。取材した日は、みんなの皆野「ふれあい祭り」に作品を出展するための作業を行いました。先生の手ほどきを受けながら、作品に気持ちを込めて仕上げていました。この度、本紙の題字をお願いしました。随時、会員を募集しています。芸術の秋、ひと筆ふるってみたいかがでしょう。問い合わせは、総合センター：62-0454までお願いいたします。



【写真】：先生にアドバイスを受けながら作品を選ぶ様子。

<地域包括支援センターからのお知らせ>

★地域でいきいき生活している高齢の方の情報をお待ちしています！！★  
自薦・他薦を問いません。

★地域活動情報を募集しています！！★

地域の寄合や行事など活動している団体を把握しています。地域社会の繋がりを通じて介護予防に一役買うような活動をぜひおしえてください。

(問合せ) 皆野町地域包括支援センター

TEL 62-1233 (内線 115・116) FAX 62-2791

## 地域包括支援センターはこんな仕事をしています

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れたところで安心して自立した生活が続けられるようにお手伝いします。

介護保険サービスの利用方法、介護予防、認知症相談、保健・障害者・高齢者福祉、権利擁護、そのほか生活に関する不安や悩みなどいろいろな相談に応じます。気軽にお電話・ご来庁ください。

## 高齢者のよろず相談所

### 皆野町地域包括支援センター（健康福祉課内）

電話 62-1233 内線 115・116

#### 【編集後記】

いつもご愛読いただきありがとうございます。なんと、前号の小欄で「ええげえし」という秩父の方言について触れたところ、2日後の9月3日に町民の方から1通のハガキが「ペンやす」あてに届いたんですよ。それには語源が書かれていました。「ええげえし」＝「相返し」。「センターだより」は平成22年9月に創刊以来、みなさんとこうして会話できるようになったんです。なんともうれしいことです。ヽ(^◇^\*)/

「高齢者のよろず相談所はどこだい？」『センターだより』を見たんだけど話を聞いてくれるかい？」という方も多くなりました。当センターの目標のひとつは、みなさんとふれ合うこと。これからも、みなさんに寄り添い、共に悩み、共に考えるスタイルを貫きます。スタイルは貫いていきますが、タイトルは一新しました。カタカナってちょっと紛らわしいですね。(^\_^) ペン やす